

# 水道橋



国立国会図書館蔵

日本の知恵、  
プラスチックの知恵

## 江戸っ子自慢の、水の掛け橋

「江戸の水で産湯を使い」と、江戸っ子が自慢したのが水道の水。徳川家康が江戸を統治する際に真っ先に取り組んだのが、治水家の大久保藤五郎に命じて行った上水道の整備でした。その甲斐あって、埋め立て地が多くて塩分が混じる質の悪い井戸水から解放されて、世界でも類のない水道のある町になったのです。のちの神田川上水となる小石川からの水を流した、木製の懸樋が付いた橋は水道橋と呼ばれ、現在は地名や駅名に「水道橋」として残っています。

こうして、大量の水を効率よく懸樋で移送した藤五郎の手腕。その橋のスピーディーな働きは次世代の光モジュールとして、省エネ・省スペースでの超高速大容量のデータ伝送を可能にした「ポリマー光導波路」の発想にも似ています。

光導波路フィルム



プラスチックのパイオニア  
住友ベークライト株式会社

光電気複合インターポーザ事業開発推進部

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目5番8号 天王洲パークサイドビル  
TEL:03-5462-4111 FAX:03-5462-4873 <http://www.sumibe.co.jp>

